

藤 保 第1307-2号
令和5年5月31日

関係機関 各位

大阪府藤井寺保健所長

藤井寺保健所管内における感染症情報（令和5年5月号）について（情報提供）

日頃から、当保健所業務に御協力いただき、お礼申し上げます。

標記について、別添のとおり情報提供します。

担当課：大阪府藤井寺保健所 地域保健課 感染症チーム 担当：茂山 TEL：072-955-4181 FAX：072-939-6479
--

取扱注意

感染症情報提供（4月新登録結核） 令和5年5月号

大阪府藤井寺保健所 地域保健課
〒583-0024 藤井寺市藤井寺1-8-36
TEL：072-955-4181 FAX:072-939-6479

★結核と診断した医師は直ちに保健所に届出をお願いします★

事例	1	2	3
診断名	結核性胸膜炎	肺結核	肺結核
年齢	80代	40代	60代
性別	男	女	女
居住地域	羽曳野市	柏原市	松原市
職業	無職	無職	無職
発見方法	有症状時受診	有症状時受診	有症状時受診
診断根拠	胸水ADA82、Lym97.5%、 滲出性胸水あり、QFT(+)	T-SPOT(+)、リンパ節培養(+)、PCR(+)	喀痰塗抹（集菌法）(+)、PCR(+)
初診医療機関	一般医療機関	一般医療機関	一般医療機関
診断医療機関	専門医療機関	一般医療機関	一般医療機関
受診医療機関数	2	2	2
発見時の症状	息切れ、胸水貯留	症状なし	倦怠感、発熱
発病～初診	15日	不明	6日
初診～診断	1か月17日	2か月3日	18日
診断までの経緯	R4年12月頃新型コロナウイルス感染症に罹患後、咳嗽・痰症状等体調不良が続く。R5年2月咳嗽・痰症状改善するが、呼吸苦あり。胸水貯留あり同月下旬～3月上旬一般医療機関入院。数日で呼吸苦再燃。その後も胸水貯留継続。4月中旬結核疑いで専門医療機関紹介受診し入院。胸水ADA82、細胞数3000、Lym97.5%、滲出性胸水あり。QFT(+)。4月中旬より結核治療開始。	約15年前に中国から来日し日本と中国を行き来する生活をしている。R5年2月頃、一般医療機関に救急搬送され十二指腸潰瘍の手術を実施。その際の胸部X線上で両側上肺野に多発する陰影が判明し、肺がん疑いとして同年4月に組織検査を実施。組織片よりTB-PCR(+)で肺結核の診断。専門医療機関に紹介となり、4月下旬よりHREZで治療開始。	R5年4月上旬に発熱し、一般医療機関に救急搬送され、解熱剤処方され帰宅。数日後に自転車で転倒し、同医療機関に救急搬送。CT上腸管腫瘍があり、一般医療機関に転院し卵巣癌と診断。胸部CT上結節像があり、3連痰施行し、4月中旬に直接塗抹(-)、集菌法(+)、PCR(+)にて肺結核と診断。R5年4月下旬に手術にて子宮、卵巣、大網切除施行。その数日後INHとEBにて治療開始。
事例の特徴	診断の遅れあり	診断の遅れあり	診断の遅れなし

5～7月はダニ媒介感染症の季節です

<主なダニ媒介感染症>

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、

日本紅斑熱、ツツガムシ病

<よく見られる症状>

発熱、倦怠感、頭痛、消化器症状

<血液検査所見>

WBC減少、血小板減少、トランスアミナーゼ高値

<マダニの特徴>



ヒトがかまれやすいのは頭頸部・上肢・胸部。
かまれてから2～3日で炎症が起こる。
長くて10日間皮膚で吸血する。

<検査について>

医療機関にて検体採取をしたうえで保健所が行政検査が必要と判断した場合、大阪健康安全基盤研究所に検査を依頼できます。上記感染症は4類感染症に指定されているため、診断の際には速やかに保健所への届出をお願いします。

参考文献：平成25年度 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究推進事業研究成果発表「マダニからうつる感染症 Q&A」、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)診療の手引き 改定新版2019

<管内でのSFTS診断事例>

○経過

令和4年6月下旬より発熱あり、近医受診し腸炎疑いにて抗菌薬を処方される。数日後意識混濁あり管内病院に救急搬送される。医師はこれまでの経験からツツガムシ病、SFTSを疑い当所に相談。当所は行政検査が必要と判断し血液検査にてPCR(+)判明。医師によりSFTS診断となる。

○医師が注目したポイント！

臨床症状：発熱、下痢、神経症状

検査値：WBC1700、PLT3.3万、Hbは正常。肝酵素上昇、腎機能低下、CK上昇、尿蛋白・尿潜血3+

行動歴：「飼い犬がマダニに咬まれたことがある」

「河川敷での畑仕事」

血液疾患も疑いましたが芽球は認めておらず、よくよく聞いてみると上記の行動歴がありました。左膝に咬傷らしき痕跡も見つかったことからSFTSを疑い、保健所に検査を相談し確定診断につながりました。肝酵素上昇、腎機能低下はSFTSによる多臓器不全を発症しかけていたためと判明しました。

診断した医師

